

水の供給にも活躍するLPガス

能登半島地震が正月の夕方によつてきた時に災害は、時も場所も選ばないことを実感した。地震や台風などの災害に見舞われた時に何が大変なのか？電気、ガス、水道、通信、交通網などのライフラインが切断されれば、生活自体が脅かされてしまう。能登半島地震では、特に困難だったのが水の供給だった。その水の供給にもLPガスが一役を担っているという。

災害で役立つLPガス

日本は、地震や台風などの災害が多い。いざ停電などで電気が遮断されてしまうと命にかかわってしまう病院や介護施設には、自家発電が備え付けられているが、そのエネルギーとして、貯槽できるLPガスが採用されてきている。また、避難所にもなる学校の体育館などの大きな空間の冷暖房にもLPガスを使ったガスヒートポンプエアコンが普及してきている。そして、発電や空調以外にもLPガスは、災害の時に役に立つという。それが水の供給だ。能登半島地震は正月に起きたが、七尾市は三カ月余り断水が続いた。ガス機器メーカーのI・T・O

浄水された水をLPガス給湯器で温め、シャワーへ、二台の洗濯機で洗濯したものは、三台のLPガス式乾燥機で乾燥。手洗い場も設け、洗顔もできるようにしました。避難所生活で苦労されている方にとっても喜んでもらえました」とI・T・O(株)営業本部企画課マネージャー岩岡冬季知氏は語る。

また、LPガスは、近隣のガス業者が配送、交換してくれるので、灯油のように災害支援スタッフが灯油の調達や補充などの面倒な作業をする必要がないのも大きな利点だという。

㈱は、同社が持つ非常用生活用水浄化装置が、水の供給に役立つと考え、NPO法人LPガス災害対応コンソーシアムと共同で被災地支援に入った。受け入れ要望のあった七尾市立小丸山小学校のプールの水を源水として、浄水した水を提供することになった。この浄水装置は、LPガスを燃料とした発電機を電源として稼働させることができることが特徴だ。自衛隊の入浴支援も来ていなかったため、組立式シャワーメーカー(㈱タニモト)とコラボして車いすも入れるシャワーも設置し、LPガス給湯器による温水を提供した。

「避難所で必要な水は、飲み水だけではないのです。シャワーや洗濯、手洗い用の水も必要。まず、

確かに、期間の短い避難所生活であれば、飲み水や煮炊き用にペットボトルの水で充分なのだろうが、避難所生活が数カ月に及ぶ時には水不足で手洗いやシャワーを浴びることができないのはかなりのストレスになる。そのままでは使えないプールや川などの水を浄水してさまざま用途に使う、こういう取り組みは是非必要だろう。また、災害時にいろいろな業種の事業者が速やかにコラボすることで人々の要望に応えようとする努力には敬意を表したい。

七尾市立小丸山小学校 災害支援活動イメージ

